

猛烈に暑かった今年の夏。みなさまは、いかがお過ごしだったでしょうか？

今年の夏は「戦後80年」の節目の年ということで、今まで以上に戦争についての新聞記事やテレビの報道番組、ドラマや映画、ネットニュースなどに触れることが多かったのではないのでしょうか。また、昨年末には被団協（日本原水爆被害者団体協議会）がノーベル平和賞を受賞したことから、今まさに日本が世界の平和を維持していく全世界のリーダーとしての役割を果たしていくことを願う夏になりました。以下は始業式で生徒たちにお話しした内容です。

私はこの夏も三度の黙とうをしました。この三度について、皆さんはもうわかりますよね。8/6・8:15、8/9・11:02、8/15・正午ですね。

広島平和記念式典では広島県湯崎英彦知事の「抑止力」についてのあいさつが印象的でした。湯崎知事は「戦争をできるだけ防ぐためには抑止の概念は必要かもしれないが、しかし、一方で、歴史が証明するように、古代から続く過去のいかなる戦争を見ても、力の均衡による抑止は繰り返し破られてきている。それは、抑止とは、あくまで頭の中で構成された概念にすぎず、つまりフィクションであり、万有引力の法則などのような普遍の物理的真理ではないからである。もし核による抑止が、いつか破られて核戦争になれば、人類も地球も再生不能な惨禍に見舞われることになる。抑止力とは、武力の均衡のみを指すものではなく、ソフトパワーや外交を含む広い概念であるはずであり、仮に破れても人類が存続可能になるよう、抑止力から「核」という要素を取り除かなければならない。核抑止の維持に多額の予算が投入されていると言われていたが、その十分の一でも、核のない新たな安全保障のあり方を構築するために頭脳と資源を集中することこそが、今我々が力を入れるべきだ」といった内容でした。

また、「平和への誓い」（平和子ども宣言）では地元広島県の小学生2名が代表として「世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。多様性を認め、相手のことを理解しようとすること。一人ひとりが相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。『One voice.』たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。」と誓いを立てていました。

一方、長崎平和祈念式典で、内閣総理大臣石破茂総理が3年の修学旅行で訪れた「如己堂」の永井隆博士の言葉の引用と、長崎平和のシンボルでもある平和祈念像について述べられていたことが3年生の平和学習とリンクしていました。『「ねがわくば、この浦上をして世界最後の原子野たらしめたまえ。』長崎医科大学で被爆された故・永井隆博士が残された言葉であります。長崎と広島で起きた惨禍を二度と繰り返してはなりません。」と原爆、核兵器への考えを述べていました。また、祈念像については「天を指す右手は原爆を示し、水平に伸ばした左手で平和を祈り、静かに閉じた瞼に犠牲者への追悼の想いが込められた、この平和祈念像の前で、今改めてお誓い申し上げます。私たちはこれからも、『核戦争のない世界』、そして『核兵器のない世界』の実現と恒久平和の実現に向けて力を尽くします。」と思いを伝えていました。

3年生のみなさんは自分にとって「平和」って何だろうかということが「自分ごと」として考え始めている人もいるのではないのでしょうか。そして、1、2年生は今後、長崎に修学旅行に行くわけですので、是非とも「平和」について、考えるきっかけとして「戦後80年」を捉えてほしいと思います。

終戦から80年。戦後世代が9割を占める今だからこそ、ご家庭でも歴史に目を向け、平和について、また、その方向へと導く様々な世の中の課題に触れてみてほしいと思います。是非ともご協力ください。